

会議名	飼料用アミノ酸研究会セミナー
開催日時	平成 19 年 11 月 13 日(火)13:00～17:00
開催場所	JA ホール(東京都千代田区大手町 1-8-3 JA ビル9 階)
主催者	飼料用アミノ酸研究会、味の素株式会社、協和発酵工業株式会社、日本火薬株式会社、日本曹達株式会社
参加人数(概数)	
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>(社)日本科学飼料協会石橋理事長を座長に、3 題の話題提供があった。</p> <p>1. 「エコフィードの飼料特性-アミノ酸について」 (独)畜産草地研究所機能性飼料研究チーム長 川島 知之氏 エコフィードと一口に言われているが、その栄養成分、蛋白質の熱変性の程度などの品質が大きく変動している。また、エコフィードの利用は飼料コストの低減に有効な手段ではあるが、どの食品残さでもエコフィードになるものではない。給与されるエコフィードは家畜生産の大きな影響を与え、また衛生管理をしっかり行わないと、深刻な疾病の原因となる恐れがある。 エコフィードを配合飼料の素材として利用する場合には、特に注意が必要である。変動の大きな素材を使って配合飼料をアミノ酸レベルで設計するには、アミノ酸の分析が必要であり、多くの手間とコストが必要となる。しかし、いわゆる食品残さではなく製造副産物の様に同一品質のものが大量に利用できる場合にはアミノ酸レベルもコスト的にも有利な素材となる。 エコフィードの調製を加熱法で行った場合にはリジンの失活が大きく、発酵法(サイレージ化)の場合には、不良発酵によりアミノ酸の利用率低下が問題となる。</p> <p>2. 世界の養殖トレンドと飼料原料需要について FAO 持続的養殖プロジェクト専門家 中田 誠 耕地面積の拡大限界から農業や畜産業の飛躍的な増産は期待できないので、海域エリアを利用する漁業養殖業への期待が高まっているため、現在持続的な養殖生産に向けたガイドラインが作成中である。この中では養殖生産による食糧確保の目的を明確にし、水産資源保護目的での漁獲制限に対して、天然資源のより有効な活用を、適切な生態系管理保全技術の開発と具体的な利用促進を提案することになる。 養殖業においてはわが国のような完全配合飼料を使用する国はごくわずかで、2006 年度の養殖生産量 6,700 万トンのうち、配合飼料等で養殖された魚介類は 1,000 万トンである。 今後は、安心安全な魚介類は天然漁獲物よりも高度に管理された養殖池で生産された魚介類であり、配合飼料の需要も増大すると考えられる。</p> <p>3. 養豚飼料における DDGS の栄養価 ミズリー大学畜産学部教授 Dr.Gary L.Allie 従来、トウモロコシ DDGS はほとんど肉用牛あるいは乳牛用に使用されてきたが、昨年、アメリカのトウモロコシ生産量の 15%以上がエタノール生産に仕向けられており、この量は今後伸びると予想される。これに伴って、養豚用飼料としても注目され始め、飼料的価値を評価する多くの研究がおこなわれている。</p>

	<p>その結果、これまでに判明した主な問題点は、製品の均一性、有効なエネルギー価、アミノ酸含有量とその利用率、リンの利用率、脂質含量と豚肉の品質への影響、増体量への影響そして輸送コストなどの問題であるとの紹介があった。</p> <p>なお、この演者は総合討論の中で、トウモロコシからエタノールを生産することに対して、個人的には、トウモロコシから燃料を製造することに否定的な見解を述べている。</p>
2 .今後の研究開発分野として重要と思われる課題・話題	<p>エコフィードおよびトウモロコシ由来の DDGS の飼料利用は、耕作放棄地における飼料生産問題とともにわが国飼料問題にとって極めて重要であり、そう急の技術体系の確立が望まれる。今回のセミナーのそれぞれ解決すべき問題が整理されて報告された。技術体系確立のための体系的なプロジェクト研究が必要である。</p>
3 .その他の発表課題で関心のあったもの	<p>特になし</p>
4 .今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等	<p>報告された研究の中には実験計画法など、飼料価値評価の手順を踏んでいないものもあり、そのまま結果を利用できないものもあった。仮にエコフィードや DDGS に関連する応募課題があっても、採択に当たってはその話題性にとらわれず、飼料評価手順について厳密な審査が必要である。</p>
5 .会議の所感	<p>飼料用アミノ酸研究会は味の素(株)、協和発酵工業(株)、日本化薬(株)及び日本曹達(株)の4社で構成されているが、企業の宣伝がほとんどなく、これまで出席した商社系、外資系の企業が主催するセミナーに比べて聞きやすかった。</p>
報告者	<p>伊藤 稔</p>